

令和6年度 学校関係者評価書

1 自己評価書（学校経営計画・自己評価書）全般について

今年度も、全般的に落ち着いた学校生活を送ることができた。令和7年度の入学希望者は、受け入れ可能人数95名を大きく超え、抽選による入学者決定となった。本校の実態が保護者、地域に理解されてきた状態が継続している。近隣小学校へのPR活動やHPからの情報量がさらに増したことも評価できる。一昨年度に立ち上げたボランティア部が、地域行事の運営にボランティアとして、積極的に関わってくれた。また、「南花畑食糧対策委員会」での取り組みとして野菜の栽培、稲作に加えて、干し柿づくりにも挑戦した。収穫量は多くはないが、計画的に活動を進め、次年度の各種野菜の栽培担当者も決まっているそうである。取り組みを改善しながら継続していくことで生徒の豊かな経験・体験となっている。地域に向けた学校行事の公開は、入学式、運動会、文化祭と無事行え、運動会・文化祭に関する生徒の参加態度や行事の完成度は今年度も素晴らしかったと地域・保護者アンケートで評価された。次年度、さらに発展した花保中を地域に公開していただきたい。

2 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

重点的な取組事項ー1 学力の定着と主体的に学ぶ生徒の育成

- ・区学力調査の結果では、今年度も好結果が見られた。1年生は3教科共に区平均・全国平均正答率を上回っている。2年生は、数学で11ポイント区平均を上回っている。3年生は国語が区の平均を6ポイント、数学で11ポイント上回った。学校全体としても教科別の平均で、昨年同様、数学が区内で上位に位置している。都立高校入学試験「英語スピーキング」では、英語の「話す力」が昨年に比べやや向上したが、まだ都の平均を下回っている。英語科を中心に「話す力」をさらに向上するよう、指導内容の工夫に努めてほしい。
- ・一人一台端末が全員に配備されてから今年で3年目。朝学習、授業時間、自宅学習や欠席時のオンライン学習にも有効活用されている。教員は、それぞれの場面での活用方法を全員が概ね習得している。次年度も生徒の学習意欲が向上するよう、様々なアプリケーションを活用するための研修を進めていただきたい。
- ・朝学習や放課後補充教室は全学年で取り組んでいるが、学習習慣が十分に定着していない生徒にも保護者と協働して家庭学習を定着させるとともに、「わかる」喜びと「できる」自信を生徒に体感させてほしい。

重点的な取組事項ー2 豊かな心を育む教育活動の充実

- ・生徒質問紙調査の「学校への満足度」の項目で、肯定的な回答が88.1%であった。昨年の83.0%とほぼ同数である。次年度は学校全体として「誰一人取り残されない教育」を推進し、不満足群にいる生徒たちへの人間関係や学習環境等にも焦点を当て、課題解決に向けて組織的に取り組んでいただきたい。
- ・挨拶運動ではPTA・地域の方々・担当生徒が多く参加してくれている。また94%（昨年93%）の生徒たちが、「挨拶や学校のきまりを守ること」についてきちんと習慣化できていると回答したことは、成果であり、今後も学校・地域が連携して継続して行っていく。

重点的な取組事項ー3 小・中連携、地域との連携の充実

- ・今年度の小中連携は、年度当初の計画通り実施でき、目標は十分に達成できたと評価できる。地域の子ども達が健全に成長できるように両校で継続して努力してほしい。
- ・小中の協議会委員・PTA同士の連携が深まり、両校の児童・生徒の育成に強く関われる環境を両校で構築してくれている。
- ・特別支援学校との交流事業は、コロナ禍以前と形態を変え、交流事業を継続している。教育課程にも取り入れ、SDGsの取り組みとして実施していることが評価できる。さらに地域の様々な機関との連携・交流を進めていただきたい。

3 その他（まとめ）

コミュニティスクール4年目の今年は、地域と学校の連携に加えて、保護者との連携をさらに強化し、三位一体となって「地域の子ども」をみんなで育てる組織づくりが目標であった。「花保中フェスタ」や「食育体験」ではPTAからも絶大なご協力をいただき、連携強化を推し進めることができた。来年も引き続き、開かれた学校づくり協議会・学校運営協議会で支援し、組織が「花保中学校大応援団」となるよう様々な活動を推進していく。